少年の主張発表者

みんなで遊ぼう　みんな友だち　子どもフェスタ★

曽於市の子どもたちの祭典「第10回曽於市子どもフェスタ」が10月17日（青少年育成の日）、末吉総合センターと末吉総合体育館で開催されました。

今年のテーマは「みんなで遊ぼう　みんな友だち　子どもフェスタ☆」

子どもフェスタは、子どもたちの健全育成の根底にある「人と人とのふれあい」を通して「人を思いやる心」「互いに協力しあう心」を育て、人間関係の強い絆の結びつきをめざして開催されています。

当日は、午前中に末吉総合センターで少年の主張大会、そお星人とキッズダンサーによるダンスの披露、財部高校生による読み聞かせ、各青少年事業の体験発表が行われました。

午後からは、末吉総合体育館に会場を移して、合計14の体験ブースで「わくわく体験コーナー」が開かれました。参加した約600人の子どもたちは、それぞれ楽しい時間を過ごしていました。

子どもたちの笑顔は、曽於市の大切な宝物です。そんな笑顔が輝く素敵な一日となりました。

テーマ考案者の
財部南小　藤（ふじ）安穏（あんの）さん

司会進行を務めた
リーダー研修生

It's a good picture

午前の部

財部高校　読み聞かせ

チャレンジ・ザ・日本一
「富士登山」事業発表

小学生７人、中学生３人が
すばらしい発表をしました。

そお星人登場！

リーダー研修「屋久島」事業発表

青少年海外派遣「シアトル」事業発表

午後の部（わくわく体験コーナー）

100 円カレー大好評！

子どもたちの笑顔があふれるすてきな一日でした

少年の主張大会

少年の主張大会には、市内の各小中学校の代表10名が出場し、学校や家庭、地域での活動や将来の夢などについて堂々と発表しました。

少年の主張大会　各賞一覧

（敬称略）

小学生の部

最優秀賞

「伝えられる自分になる」
谷口　文音（恒吉小学校6年）

優秀賞

「日本一になるために」
土橋　愛花（末吉小学校6年）

優良賞

「夢へ向かって」
江口　彩乃（菅牟田小学校6年）
「キャプテンとして」
勝山　翔太（諏訪小学校6年）
「世界から見た岩川のよさ再発見」
ミョウコウ愛海（岩川小学校6年）
「今、できること」
福田　雅斗（深川小学校6年）
「絶対かなえたい私の夢」
谷元　音羽（財部小学校6年）

中学生の部

最優秀賞

「『ありがとう』の五文字」
東　春花（末吉中学校2年）

優秀賞

「私の夢」
富吉　杏朱（財部中学校3年）
「ふるさとの思いをつなぐ」
柏木　志穂（大隅中学校3年）

小学生の部【最優秀賞】

伝えられる自分になる

恒吉小学校　六年　谷口文音

アナウンサーやレポーター、新聞記者のような、人が知らない事を分かりやすく伝える仕事がしたい。

これが、大きな声で言える私の夢です。

でも今の私は、伝えることが上手ではありません。友達と話をする時、授業で発表する時、文章を書く時、頭の中で考えている事がスラスラと出てこないし、すぐに「ううん」と頭をかかえてしまいます。

そんな私を少しでも変えてみたいと、今年の国民文化祭の市民ミュージカルに参加することにしました。そして今、練習をがんばっています。歌を歌ったり、ダンスをしたりと、初めは楽しいだけでした。でも、「ことね」という役をもらい、セリフを言うことでその役の思いを伝えるということが、大変だということに気が付きました。

自分は、大きな声を出しているつもりでも、「声が小さい。」と言われます。自分は、大きく動作をしているつもりでも、「動いていない。」と言われます。自分は、役になりきっているつもりでも、「役になりきっていない。」と言われます。私は、どうしてそう言われるのだろうと、その意味を考えてみました。

伝えたつもりが相手に伝わっていなかったのではないでしょうか。伝えるということには、必ず相手がいます。自分ばかりが分かればいいのではありません。相手に自分の伝えたいことを分かってもらわなければ、伝わっていないということなのです。舞台の上から、たくさんのお客さんに役の思いを伝えるには自分の思っている以上に声を出して大きく動かなければ、伝わらないということに気付きました。私は、大きな声を出すために、ストレッチや発声練習をすること、スムーズに動けるために、次はどんな場面でどのセリフを言うのか、どんな動きをどんな感情でするのかを、しっかり覚えることにしようと決めました。そうすれば、相手に分かりやすく伝わると思ったからです。

相手に伝えることの難しさの例えに、「大きい犬」と言うよりも、「私より大きい犬」と言う方が相手に犬の大きさが伝わります。「毛はやわらかい」と言うよりも「綿毛のように、やわらかい」と言った方がそのやわらかさが伝わります。このように、伝えることは難しいことだなと感じています。

私の夢は、アナウンサーやレポーター、新聞記者のような、人が知らないことを分かりやすく伝える仕事につくことです。その夢をかなえるために、今私ができることは、本をたくさん読んで、知識を広げていくこと。また、いろいろなことにチャレンジして、その体験することでその時の気持ちに共感していくこと。そして、相手のことを思える自分でいること。この三つのことを日々心がけ、今をがんばり夢に近づきたいと思います。

中学生の部【最優秀賞】
「ありがとう」の五文字

末吉中学校　二年　東　春花

「ありがとう」、感謝の気持ち。あなたは普段「ありがとう」を伝えられているだろうか。たった五文字なのに言えない「ありがとう」の気持ち、今日はさらけ出してみてはどうだろうか。

私が今一番「ありがとう」を伝えたい人は昨年亡くなった祖母だ。いつ頃だっただろうか、数年前から祖母は「大腸ガン」という悪魔におかされ、薬の副作用と戦い続けた。一度だけ、奄美大島にいる祖母のお見舞いに行ったことがある。そこで見た祖母の姿は、元気だった頃の祖母とは全くの別人で、私はかなり打ちのめされた。ガンは祖母をこんなにも変えてしまったのだと思うと、祖母に取り付いた悪魔を心底恨みたくなった。

後日、祖母から小包が届いた。宛名は私でいぶかしみながら開けてみると、色とりどりの着物と一通の手紙が入っていた。そこには変わり果ててしまった祖母の元気な頃から全く変わらない文字で、「ばあちゃんはもう、何もできないけど、春花のために今、着物をつくりました。今までありがとう。」と書かれていた。震える手で一生懸命手紙を書く祖母の姿が、目の前に浮かぶようだった。どうして私が「ありがとう」なんて言われるのだろう、私は何もしていない、苦しむ祖母を励ますことしかできないのに…。祖母はどこまでも私のことだけを考えてくれていたのだ、と今更のように感じた。

祖母の死を告げられたとき、私は頭が真っ白になって、無理やり体中に氷を詰め込まれたような気分になった。ズキズキと赤い痛みではなく、スッとした冷たい痛み。唐突に突きつけられた残酷な現実に、私の体は自分でも分からないくらい、ただただ震えていた。私は祖母の死を、素直に受けとめることができなかった。

祖母のお葬式は、私の中学校入学式の前日に行われた。お葬式に行ったことのなかった私は、ひたすら困惑していた。私たち家族を見つけた祖父が手招きして、枯らした声で

「ばあちゃんの顔を見てやって」

と言った瞬間、私は逃げ腰になった。棺に入った祖母を見たら、祖母が亡くなったという現実を受け入れなければならないと思ったのだ。まだ私は祖母が生きていることを信じていた。いや、私は祖母が生きていることを願っていたのだ。

母に背中を押され、私は恐る恐る棺を覗いた。祖母は今までの中で一番綺麗な顔で眠っていた。あぁ、本当に祖母はいなくなったんだな、と頭が空っぽになった。そして「ありがとう」と言えなかったことを心底後悔した。自分が病気で苦しんでいるというのに、私のことを考えてくれていた祖母。震える手で自分の思いを綴ってくれた祖母。いつだって私を優しく見守ってくれた祖母に、私はなぜ大切な言葉を伝えられなかったのか。後悔してもしきれない思いで胸がつまった。

「ありがとう」。たった五文字の言葉なのに、なかなか言えない言葉。「ありがとう」たった五文字の言葉なのに、聞くと嬉しくなる言葉。「ありがとう」たった五文字の言葉なのに、大切な思いが詰まっている言葉。私にとっての「ありがとう」は伝えられなかった言葉。私は祖母に「ありがとう」は伝えられなかった代わりに、「ありがとう」の大切さを教わったのだと思う。私は二度と会えなくなってから祖母に伝えたかった、でも伝えられなかったあの言葉に気付き、その大切さを身に染みて実感した。

普段は照れくさくて言えない、でも心の中にあふれる「ありがとう」、今日は素直に言ってみよう。「ありがとう」の五文字を言う勇気、今日は振り絞ってみよう。

ほら、目を合わせて、「ありがとう」。

曽於市子どもフェスタ開催について

市子ども会育成連絡協議会
会長　岩水　豊

10回目を迎えることができた子どもフェスタは、多くの方々のご協力、そお星人の登場で盛大に開催できました。

青少年リーダー研修の参加者の進行による午前の部の「少年の主張大会」では、将来の夢や家族への感謝の言葉、ふるさとへの思いなど素晴らしい発表を10人の児童生徒がしてくれました。

今、教育現場では学力低下が心配されていますが、目標を持って自主的に取り組むことが学力向上にもつながるのではと感じました。

お昼は、曽於市女性部のみなさんによる100円カレーもあり、午後の部は青年団、曽於高校・末吉高校の生徒、南九州大学の学生、そお文化村、どんぐり谷自然塾、青少年指導員の方々など多くのご協力で「わくわく体験コーナー」ができました。子ども達の目線で接するスタッフの対応に感心しました。

2学期は色々な行事が続き、子どもたちも楽しみが多かったことでしょう。心も体も、多くの物を吸収し成長することを願っています。